

平成 19 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 関東電化工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 富田芳男
(コード番号 4047 東証第 1 部)
問合せ先 人事総務部専任部長 浦本邦彦
(TEL. 03 - 3216- 4561)

中期経営計画（チャレンジ 500）の概要 （平成 19 年度～平成 21 年度）

関東電化工業株式会社は、このほど、平成 19 年度を初年度とする第 7 次 3 ヶ年計画を策定いたしましたので、その概要につき、お知らせいたします。

本計画においては、この 3 年間で、次の 10 年を見据えた新たなステージへの飛躍、成長基盤づくりの期間と位置づけ、「**キラリと光る特色ある創造的開発型企业**」を目指し、既存事業の更なる収益力強化と、当社の強みであるフッ素関連技術を活かした新規製品の創出に注力してまいります。なお、サブタイトルである「チャレンジ 500」は、売上高目標にとどまらず、「**目標に向かってチャレンジしていく企業文化への変革**」という意味を込めたものであります。

記

1. 数値目標（最終年度）

売上高 : (単体) 500 億円、(連結) 550 億円
営業利益 : (単体) 75 億円、(連結) 80 億円
ROA : (単体) 12%

※ROA：総資産利益率、営業利益を総資産で除した数値。

2. 企業目標

(1) 既存事業の更なる収益力強化

既存事業については、更なるシェア拡大、技術改良（生産革新）による競争力強化、品質の向上、コストダウンの徹底により、収益力の強化を図るとともに、原料調達・研究開発体制を含めて、事業戦略を再構築する。

(2) 新規製品の創出

新規製品の創出については、当社の強みを活かした分野に特化し、規模は大きくなくとも、最先端分野で必要不可欠とされるようなオンリーワン製品の開発に注力する。また、そのための経営資源も積極的に投入し、次世代成長事業の早期創出を図る。

(3) 社会から信頼され誇りを持って働くことが出来る企業づくり

(1)、(2)を推進していくため、CSR（企業の社会的責任）を意識した経営理念と行動指針をベースに、経営体質の強化、企業文化の確立を実現し、社会から信頼され誇りを持って働くことが出来る企業づくりを目指す。

3. 上記を達成するための戦略とその主な施策

(1) 既存事業の更なる収益力強化

- ①フッ素系ガス事業については、引き続きユーザー・業界動向等の情報をいち早くキャッチし、確実に需要を掘り起こす。更なる品質の向上、競争力強化のための設備改良・コストダウンの徹底を図る。
- ②電池事業については、リチウムイオン2次電池向けの需要増に対応するため、更に競争力のある製造技術の確立を目指す。また、電解液用添加剤を軌道に乗せ拡大させるとともに、新たな製品を開発し、市場への投入を図る。
- ③鉄系事業については、当社の持っている微細化技術を利用し、用途開発に注力するとともに、キャリア事業について早期に事業構造を改革し収益の改善を図る。
- ④基礎化学品事業については、水島工場での集中生産体制を確立し、更なるコストダウンを実施し、収益力の向上を図る。
- ⑤グローバルな営業展開、研究開発力の活用、及び原材料の調達を目的に、海外拠点の充実を図る。

(2) 新規製品の創出

- ①フッ素誘導品分野、鉄系微細化分野、塩素系誘導品分野を重点研究分野とし、経営資源を積極的に投入していく。
- ②販売と研究が一体となって市場ニーズをいち早く捉えるため、研究開発体制を強化する。
- ③産学連携・派遣・留学等の人的交流等、今後も積極的に外部との連携、情報収集を実施する。

(3) 社会から信頼され誇りを持って働くことが出来る企業づくり

- ①全社的業務改善活動（K-SF³活動）を積極的に推進し、活動内容のレベルアップを図り、コストダウン体制（体質）の強化、安全、環境などの諸施策を推進する。
- ②労働安全衛生マネジメントシステムを基本としたPDCAサイクルによるスパイラルアップを図り、関係会社を含めた職場の安全体質を強化する。
- ③内部監査室を置き、内部統制の充実を図る。
- ④RC（レスポンシブル・ケア）目標を着実に実行し、地域、社会に貢献する企業を目指す。

4. 数値計画（連結）

（単位：億円）

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
売上高	4 3 5	5 0 0	5 5 0
営業利益	4 5	6 5	8 0
経常利益	4 2	6 2	7 7

以 上